

日本ELVリサイクル機構 ニュースレター (ELV Newsletter)

《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構 広報部会長 永田 則男

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2-2 一美ビル5F

Tel:03-3519-5181 Fax:03-3597-5171 メール: jaera-homepage@elv.or.jp URL: http://www.elv.or.jp/

環境省受託事業 採択決定！

前号にてお伝えしたとおり、日本ELVリサイクル機構は、本年度も環境省受託事業である「平成25年度自動車リサイクル連携高度化事業」に応募しました。結果、平成25年9月10日、環境省より採択内示通知を拝受し、採択が決定となりました。本年度の事業概要は以下のとおりです。

1. 事業概要

コンピューター基板回収

全国300程度の解体業者において、合計1万台以上の使用済自動車から選別方法や分類基準にしたがってコンピューター基板を回収し、集積した後に精錬業者に引き渡す。

- 貴金属類の含有量による基板類の分類（3種類程度を想定）
- 第三者機関による分析 → 分類基準の確立 → 業者間での共有

[分類例]



①



②



③

ネオジム磁石回収

各ブロックにおいて回収技術（取り外し、消磁、分解）の研修を行い、全国で400台以上の使用済HV車（EV車）よりネオジム磁石を回収し、集積した後に磁石原料メーカーに引き渡して、資源性の評価を行う。

- 昨年度：試験的な取り組み → 本年度：全国展開
- 回収対象の拡大（メーカー・車種等）
- 回収技術（取り外し・消磁・分解）研修の実施

[参考写真／昨年度の事業より]



駆動用モーター全体



ステーターコイル・ローター



消磁
～バーナー加熱～

(次ページに続く)→

目次

巻頭言	 1
トピックス1	
環境省受託事業採択	 1～2
トピックス2	
環境省受託事業関連 会議開催	 2
会員活動報告	 3～4
外部からのお知らせ	 5
鉄スクラップ最新情報	 6
行事予定	 7
お知らせ	 7
編集後記	 7

※今号は連載記事を
休載とさせていただきます。

巻頭言

先日、富岡町より避難されているお客様から廃車処分の依頼を受けました。しかし、丁重にお断りいたしました。喉から手が出るくらい車が欲しいこの時期にです。

原発事故の影響はまだ終わってません。放射線量が多いと思われる車を扱うことのリスクがどんなものかわかっていればこそ、社員の健康被害を第一に、行き先の無い解体車両の保管、そして風評被害等考えれば考えるほど、原子力発電所の近くにまだまだある車には、関わりたくないと思うのは私だけではないでしょう。

困っているお客様の手助けになれないジレンマ——、ここ福島の解体業者は終わりのない自責の念にかられるのです。

(広報部会委員 田村 幸男)

2. ねらいと課題

コンピューター基板回収

- 国内循環を阻害している要因＝納入のたびにかかる分析コスト(採算性の悪化)
 - 精錬業者等との情報交換等を通じて、どのような形で供給するのが最も好ましいかを調査する。
 - 納入条件等の交渉を関係者間で行う。
- 昨年度の事業結果＝輸送効率や輸送コストにバラつきあり
 - 輸送経費の低減を目的に、物流システムの在り方を検討し実証する。
(精錬業者等との連携も視野に入れる)

ネオジム磁石回収

- 昨年度の事業結果＝ネオジム磁石の分離:可能／消磁:コストに見合う採算性×
 - 効率的な消磁工程の工夫などを検討する。
 - 使用済HV車及びEV車からの回収技術を業界内に周知していく。
- 目標:磁石原料メーカーが要望する1ロットの重量を集荷すること
 - 回収拠点を拡大し、事業性を検証する。
 - 副産物である銅の引き渡し方法についての検討も行う。



3. 連携先

- 東京大学 大学院工学系研究科
- JX日鉱日石金属 株式会社
- 株式会社 三徳

委託研究先
コンピューター基板の引き渡し先
ネオジム磁石の評価依頼先

環境省受託事業 関連会議 開催報告

環境省受託事業の採択決定を受けて、平成25年9月20日に事前打ち合わせの会議が行われました。その結果、以下のようなことが決定しました。

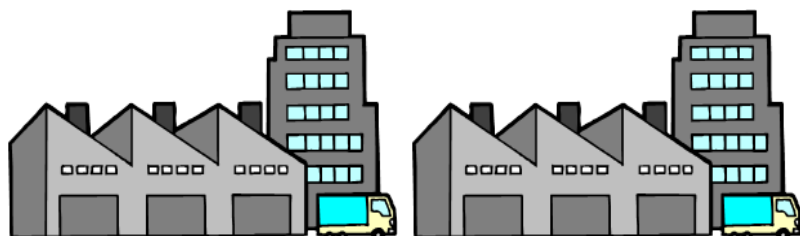
1. コンピューター基板回収

全国展開の前に、作業者の作業容易化のため、以下の検討を行う。

- ★ 貴金属類の含有量の目安として、含有量の多さが基板の見た目から判断できるか
- ★ それをもとにした分類が可能であるか

《手順》

- 1) 一部の事業所で基板を回収する。
- 2) 回収した基板をリスト化する。
- 3) リストをもとに、種類の異なる基板のみを集積する。
- 4) 集積した基板を実際に見て、見た目で分類する。
- 5) 見た目で分類した基板を分析に出す。
- 6) 分析結果から見た目での分類の成果を確認する。



2. ネオジム磁石回収

全国展開の前に、回収技術研修に使用する資料として、ネオジム磁石の取り外し・消磁・分解を行い、撮影する。
→ 平成25年9月25日(水)
河村自動車工業 荏崎支店にて実施

3. 情報伝達の体制

きちんとした情報伝達の体制を作り、事業をスムーズに進行させる。

事業検討委員会 各ブロック担当者
(本部の事業検討委員会から各1～2名選出)

事業実行委員会 委員長
(各ブロックから1名選出)

事業実行委員会 委員
(各地域団体から1～2名選出)

山梨県カーリサイクル協同組合 県との協定締結



(↑写真:協定書に署名し握手を交わす横内知事と保坂理事長)

災害時における協定を締結している地域団体

北海道自動車処理協同組合

→ 平成18年11月7日、北海道警察本部と締結

静岡県自動車解体業協同組合

→ 平成24年3月14日、静岡県と締結

山陰ELVリサイクル協議会

→ 平成25年3月26日、鳥取県と締結

平成25年9月11日、山梨県カーリサイクル協同組合は、山梨県と「大規模災害時における障害物の除去等の協力に関する協定書」を締結しました。

この協定書には、山梨県において大規模災害が起き、道路上の被災車両により市町村が実施する早急措置に問題が生じた場合について、以下のようなことが記載されています。

【大規模災害発生時】

- 1) 市町村が県に対して障害物の除去等を依頼する。
- 2) 市町村から依頼を受けた県が同組合に対して当該市町村への協力を要請する。
- 3) 県から要請を受けた同組合が組合員の保有する機材などを活用し、必要な協力を行う。

東日本大震災の発生から約2か月後に仙台市を訪れ、被災車両を撤去した経験を持つ同組合の保坂理事長は、「被災地での経験を活かして、安全で素早い行動を取りながら被災車両の撤去活動を行いたい」と話していました。

なお、その他災害時における協定を締結している地域団体は左図のとおりです。

各ブロック長が集結 ブロック長会議開催

平成25年9月6日、「第1回ブロック長会議」が開催されました。この会議は、自動車リサイクル士制度に関する情報共有を目的として行われ、各ブロック長がELV機構本部会議室に集まりました。

自動車リサイクル士制度の概要から講習会の開催手順まで、本部より説明がありました。その説明の後、ブロック長からの質問や意見をふまえ、お互いに丁寧に情報共有を図っていきました。

細部にわたって議論を交わしたことで、制度に対する疑問や不安が一つ一つ解消され、本部とブロック同士で協力し合い、制度を盛り上げていこうと一致団結した会議となりました。



(↑写真:当日参加されたブロック長各位)

参加者

■各ブロックより

平地 東北ブロック長、吉田 中部北陸ブロック長、
高野 近畿ブロック長、湯浅 九州ブロック長、
松田 沖縄ブロック長

■ELV本部より

伊丹 副代表理事、吉川 副代表理事、
金澤 ブロック長会議長(関東ブロック長)、
事務局

会員活動報告

～ 自動車リサイクル士制度 関連報告～

東北ブロック認定講習会 無事終了！

[執筆／東北ブロック長 平地 健]

関東ブロック講習会から約3週間後の9月12日(木)、宮城県仙台駅近くの「仙台市情報・産業プラザ」にて、東北ブロック自動車リサイクル士制度認定講習会が開催されました。当日は受講者64名、来賓ならびに東北各地の行政関係者14名、講師役のインストラクター4名、本部役職員他13名の総勢93名が参加し、盛況裡に開催することができました。

関東ブロックでの講習会の不成功を目の当たりにし、その次となる東北ブロックでの講習会を是非成功させたいとの思いが強く、ブロック長として相当のプレッシャーを感じていましたが、その不安も、当日の朝8時30分に会場の前に集まった事務局関係者ならびに受付を待つ受講者の方々を目にし、皆さんの大きな期待を感じた瞬間、霧散していました。余裕のない会場準備も各自が的確に役割を果たし無事完了。受付開始直後には、あっという間に会場がいっぱいになりました。



(↑写真:東北ブロック認定講習会の受講者の方々)

講師を務めた東北各地のインストラクターの方々は、前日のリハーサルの成果をいかに発揮し、分かりやすく素晴らしい講義を行いました。役割が終わった後の、講師たちの安堵の表情が印象的でした。

今回の講習会により、東北の同業者の多くが、ELV機構の自動車リサイクル士制度に対して高い関心を持っていることを実感させていただきました。自動車リサイクル産業の東北における新たなスタートの瞬間でした。

リハーサル研修会 開催報告



東北ブロック

9月11日(水)13時より仙台の会議室にて、東北ブロック自動車リサイクル士認定講習会に向けたリハーサル研修会が開催されました。当日は自動車再資源化機構 須藤部長、伊丹副代表理事、吉川副代表理事、三木リサイクル技術部会長、奥野事務局長、北海道の吉岡インストラクター、秋田県自動車解体組合佐藤理事長、東北のインストラクター4名、さらに自動車リサイクル士制度認定講習会アドバイザーとして今城高之様と、大勢の参加の中開催されました。

インストラクターの皆様から様々な意見や感想を聴きながら講師を確定し、その後、実際の講習会の内容に沿ってリハーサルを行いました。インストラクターの熱意が伝わった研修会でした。



北海道ブロック

去る9月13日(金)、北海道ブロックの講習会講師候補者が参加してリハーサルを行いました。前日の12日には、東北ブロックの講習会が仙台で開かれており、そこに出席したELV機構担当副代表理事、部会長他、並びに、本番当日に講義の一部を担当していただく予定の自再協のグループリーダーも、前日より札幌入りしました。

午前10時、札幌市内北自協事務所会議室に講師予定の北海道ブロックのインストラクター3名をはじめとする関係者10名が勢ぞろいし、リハーサル開始。昼食時間を挟んでの熱心なリハーサルが行われ、今後さらに研鑽を積んで10月4日の本番を迎えることとなりました。

外部からのお知らせ

自衛水防のための取り組みに関するお知らせ (経済産業省自動車課より)

※ 経済産業省自動車課を通じて、以下のような国土交通省からのお知らせがありました。

国土交通省から事業所の皆様へ、自衛水防に役立つ情報提供の資料と関連ホームページのご紹介です。

国土交通省では、自衛水防に関して様々な情報を提供しているとのことです。(関連資料参照)
また、情報提供にとどまらず、浸水防止の取組をお考えの企業の皆様のサポートするため、全国各地にあります国土交通省 河川関係事務所内には、相談窓口「災害情報普及支援室」が設置されており、何かございましたらいつでもご相談いただきたいとのことです。

また、国土交通省では、河川の氾濫発生時における時系列での浸水区域データの提供や雨量・水位情報についてのアラームメールの発信等の自衛水防に役立つ情報提供の強化を行っているとのことです。

当該情報提供に関しまして、より詳しくお聞きになりたい場合は、事業所近くの地方整備局の方がご説明に伺うとのことです。お近くの整備局までお問い合わせいただきたいと思いますとのことです。
(HPの「災害情報普及支援室」に地方整備局の連絡先一覧がアップされております。)



<関連資料>

<http://www.elv.or.jp/media/Rakude/20130924145638-jname.pdf>

<国土交通省の水防関係のHP>

<http://www.mlit.go.jp/river/bousai/main/saigai/jouhou/jieisuibou/index.html>

エアバッグ類適正処理に関する重要なお知らせ (自動車再資源化協力機構より)

※ 自動車再資源化協力機構から以下のようなお知らせがありました。

このたび、エアバッグ類車上作動処理業務規約、遵守事項が改訂されます。規約に違反し登録取消となった事業者については、自再協のホームページに実名等を本年10月1日から公表いたします。

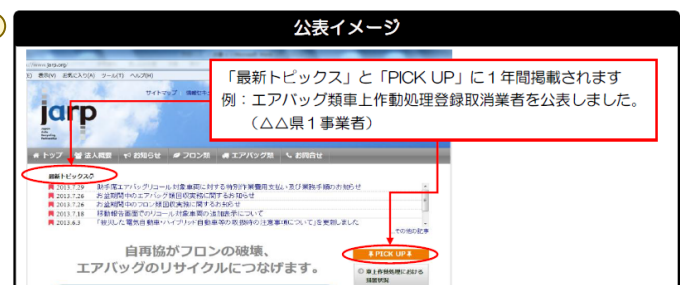
契約業者の皆様方におかれましては、引き続き車上作動処理業務の適正な実施・管理をお願いいたします。

※ 事業者/事業所名、事業所の住所、取消理由を公表いたします。

※ 公表の情報は、国/管轄自治体および自動車メーカーにも報告いたします。

主な違反例

- ① エアバッグ類(シートベルトプリテンショナ含む)未処理車台の輸出・破砕業者等への引渡し
- ② エアバッグ類未処理車台の管理台帳実績記入、電子マニフェスト引渡報告
- ③ 未処理エアバッグ類(ハーフカット車含む)の不適正保管、輸出、転売、購入
- ④ 敷地内での第三者による車上作動処理、解体行為、未処理エアバッグ類の保管
- ⑤ 監査等の業務調査の受け入れ拒否、監査時の暴力・威嚇



お問い合わせ先

自動車再資源化協力機構(業務部)



TEL: 03-5405-6155

E-mail: info@jarp.org

鉄スクラップ最新情報

■ 9月第3週(25日)の鉄スクラップ動向 ■

[提供／日刊市況通信社]

全国的に先安観広がる～東京製鉄が21日に値下げ改定

東京製鉄が21日、一部を除き鉄スクラップ購入価格を1トンあたり500～1,000円値下げしたことに加え、2週連続の3連休が終わったことや月末が近づいたことなどから、全国的に鉄スクラップについて先安観が広がっている。

24日時点では、電炉筋は3連休の操業による鉄スクラップの消費増で、鉄スクラップの在庫水準を落としている。このため電炉筋は、在庫の回復を図る必要があるが、市場では、月末が近いことや相場が頭打ちとなったことで、市中スクラップの荷動きが回復するとの見方が多く、先安観が強まっている。

また、H2新規輸出価格市場が直近でFOB32,500～3,300円どころと国内相場を下回っており、引き続き韓国の電炉メーカーなどに高値警戒感があることも、日本国内市場で先安観が強まる要因となっている。

このため、21日時点の国内電炉の鉄スクラップ購入価格の値下げ改定は、東京製鉄のほかは、東北や大阪電炉の一部、姫路、中国、九州にとどまったが、月末までにウラ値やスポット価格の解消などを含め、値下げ改定の動きが広がる見通しだ。



【関東地区】東日本電炉は様子見姿勢、東北電炉の一部が値下げ

9月25日の国内スクラップ炉前実勢価格			
		H2	気配
関東	北関東	33,000 ～ 35,500	弱含み様子見
	南関東	33,000 ～ 35,500	弱含み様子見
	名古屋	33,500 ～ 34,500	弱保合い
関西	大阪	33,000 ～ 34,500	弱含み
	姫路	33,500 ～ 34,000	値下がり

関東地区では、東京製鉄宇都宮工場が1,000円の値下げを21日付で実施。同工場の値下げに対しては、東北のJFE条鋼仙台のみが値下げ対応した。その他の東日本電炉に反応はなく、それぞれ価格水準を維持した。関東電炉の一部に18日からの値上げを実施した筋があるが、連休前だったこともあり価格改定を行わず、足元の入荷を促す対応をとったと見られる。H2炉前実勢価格は33,000～34,000円中心、高値34,500～35,500円見当。

【東海地区】東京製鉄の値下げで市況は調整下げ局面へ

東京製鉄・田原工場は21日から購入価格を一律500円下げ、陸・海上特級34,000円としている。他の電炉は追随下げを見送ったものの、一部では3連休明け早々の下げ意向を伝えており、これが広がる公算が強まっている。電炉は2週連続の3連操終了後、一部で調整生産への移行も聞かれることで消費減となり、引き合いが緩むことも予想される。名古屋地区のH2炉前実勢価格は33,500～34,000円中心、高値34,500円見当。

【関西地区】東京製鉄下げ改定受け、姫路以西で下落局面入り

西日本では21日付の東京製鉄の値下げ改定を受け、九州・山口地区電炉の5社が即追随したほか、姫路電炉もJFE条鋼を除く3社が値下げを実施した。一方、大阪地区では3連休中の操業及びその後の在庫回復を踏まえ、一部のメーカーを除き目立った値動きはなく、大阪と姫路以西で足並みが揃っていない。H2炉前実勢価格は33,000～34,500円。姫路地区のH2炉前実勢価格は33,500～34,000円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、9月25日午後時点のもの)

行事予定

■10月の主な予定

10月2日(水)

- ・インストラクター向けリハーサル研修会
(近畿ブロック・中国四国ブロック 合同開催)
(自動車リサイクル士制度認定講習会準備)

10月4日(金)

- ・北海道ブロック 自動車リサイクル士制度
認定講習会

10月6日(日)

- ・平成25年度 安全作業指導員研修会

10月9日(水)

- ・中部北陸ブロック会議

10月17日(木)

- ・近畿ブロック 自動車リサイクル士制度
認定講習会

10月18日(金)

- ・インストラクター向けリハーサル研修会
(九州ブロック 自動車リサイクル士制度認定講習会準備)

10月20日(日)

- ・関東ブロック会議

10月22日(火)

- ・第7回 広報部会

10月31日(木)

- ・第1回 回収高度化事業 事業検討委員会

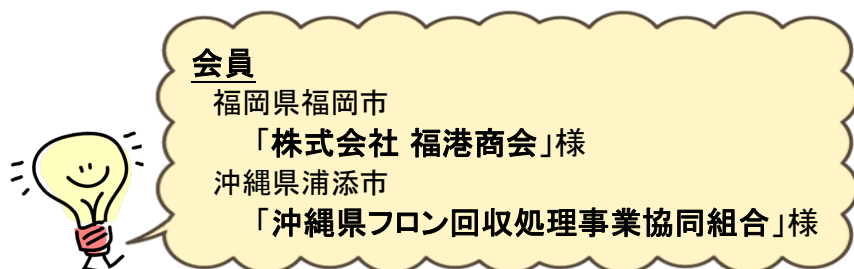


お知らせ

■会員数(2013年9月現在)

会員＝668社／賛助会員＝25社

■新規ご入会者のご紹介(2013年9月ご入会)



■自動車リサイクル士に関するご案内

現在の自動車リサイクル士制度認定講習会に関する日程は以下のとおりです。

開催ブロック	開催日程
北海道	平成25年10月4日(金)
近畿	平成25年10月17日(木)
沖縄	平成25年11月8日(金)
中国・四国	中国地区: 平成25年11月20日(水)
	四国地区: 平成25年12月11日(水)
九州	平成25年11月29日(金)
中部・北陸	平成25年12月2日(月)

編集後記

自動車リサイクル士制度認定講習会も順調に行われております。関東ブロック、そして今号の記事にもあるように東北ブロックの講習会も無事に終わることが出来ました。参加人数も上々のようです。▲一方では、昨年に引き続き回収高度化事業も検討されています。様々な企画が次々と立案され、ELV機構はまさに活性しております。▲その勢いを象徴するかのようになたな人材が部会、委員会に加わりました。この場を借りて紹介いたします。リサイクル技術部会に東京自動車リサイクル協議会所属、有原 良氏(有限会社有原商店)、鹿児島県ELV協同組合所属、伊地知志郎氏(株式会社オートパーツ伊地知)の2名、資源循環委員会に秋田県自動車解体処理協同組合、佐藤勇輝氏(株式会社サユウ)、そして我が広報部会には長野県ELVリサイクル協議会、木村香奈子氏(株式会社コマゼン)が加わりました。なお伊地知志郎氏におきましては広報部会と兼務です。素晴らしい人材が集まってきました。今後の活躍が楽しみです。

(広報部会長 永田 則男)